



松山 健康・観光まちづくり 「スマイル松山」プロジェクト



2014.4.9



はじめに

- 事業の位置付け
- 事業体制

【松山市の特徴】

■コンパクトシティ



歩く

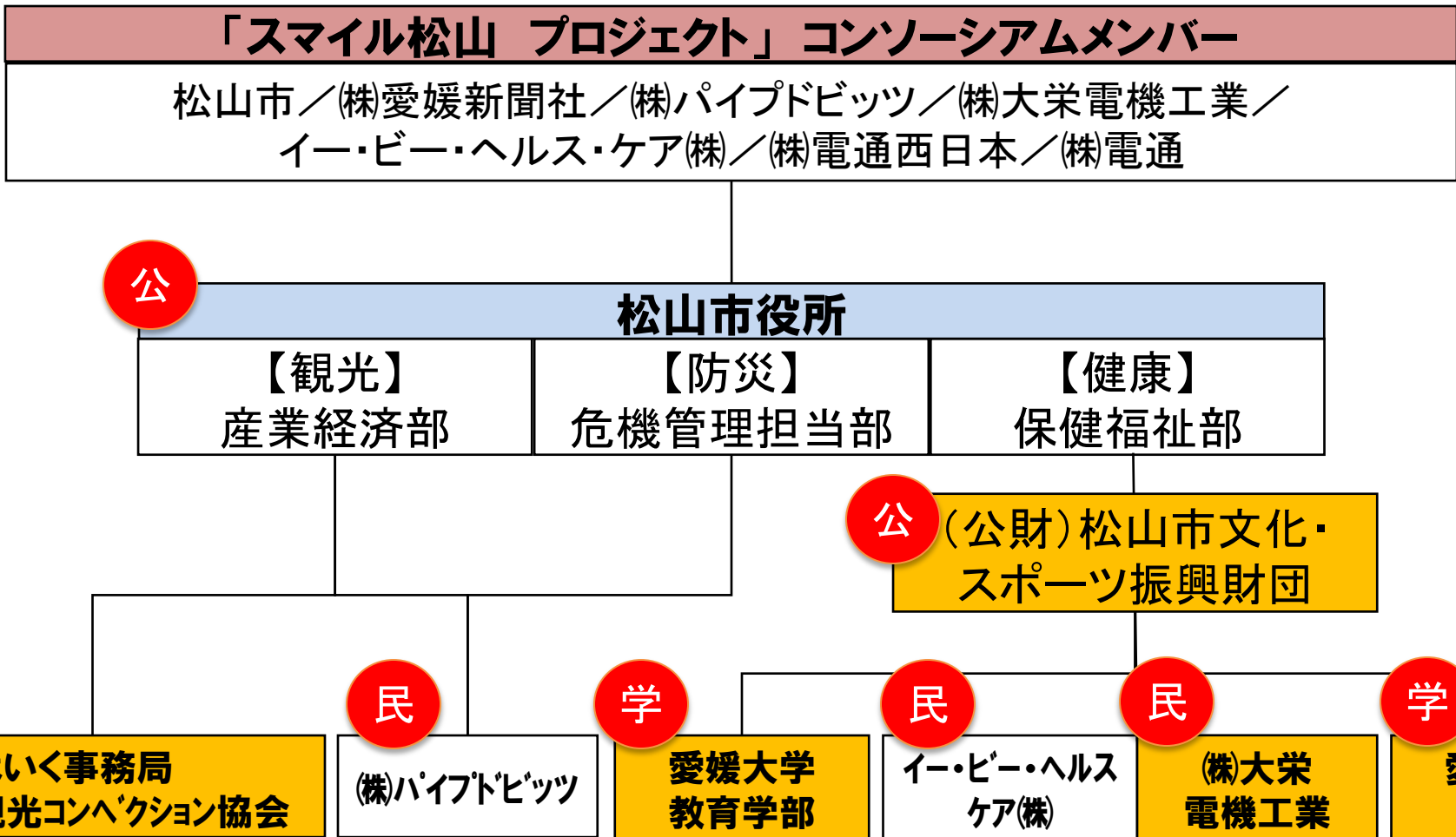
■国際観光都市



巡る

➤ 住民と観光客向けにバランスの取れた街
「住んでよし、訪れてよし」

プロジェクト推進の為のコンソーシアムメンバーを結成。
 コンソーシアムメンバーを核として、公民学が連携して本事業を推進している。



* は松山に本拠地を置く団体。



今年度の実施概要

- 松山市の課題とそれを解決する本事業の実証
- 「スマイル松山 健康ナビ」概略
- 「スマイル松山 ハイク&安心ナビ」概略



「スマイル 松山」プロジェクト ～1日1マイル歩こう 観光で笑顔になろう～

【健康ICT】



健康寿命の延伸 (将来的な医療・介護費の縮減)

- パーソナル・メディカル・チェック支援
- 専門的な健康アドバイスの提供
- ウォーキングマップをスマホ対応、既存ウォーキングイベント等と連携

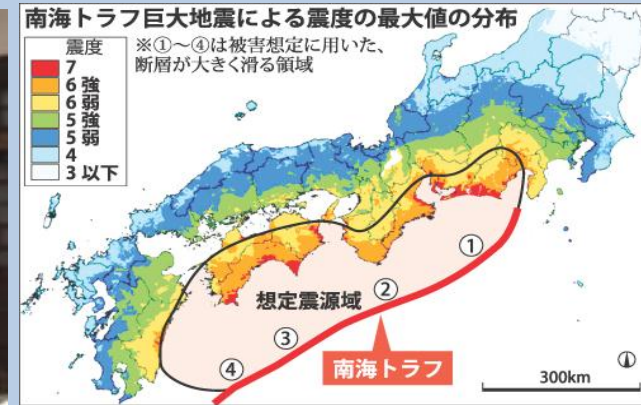
【観光ICT】



滞在型観光の推進

- 利便性の高い観光情報の提供
- 「街歩き」の活性(地元ガイドと連携)
- 街歩きの健康価値を見える化(消費カロリー表示)

【防災ICT】



防災基盤の強化

- 健康・観光街歩きマップとあわせて防災マップを情報提供(平時)
- 避難支援と安否・所在確認システム(緊急時)

健康ICT事業（＝スマイル松山 健康ナビ）



健診機関



モニター
(474名)



※同意
国保DB

ACTION(実施支援)
(松山市文化・スポーツ振興財団)

健康
アドバイス
医学部



運動
アドバイス
教育学部

分析

- KPI
- 活動量計
 - 健康データ
 - アンチエイジング調査

統合DB

データの集約

(健診履歴、活動量、健康データ)

データの集約

観光ICT

健康ICT

防災ICT



平時⇒緊急時



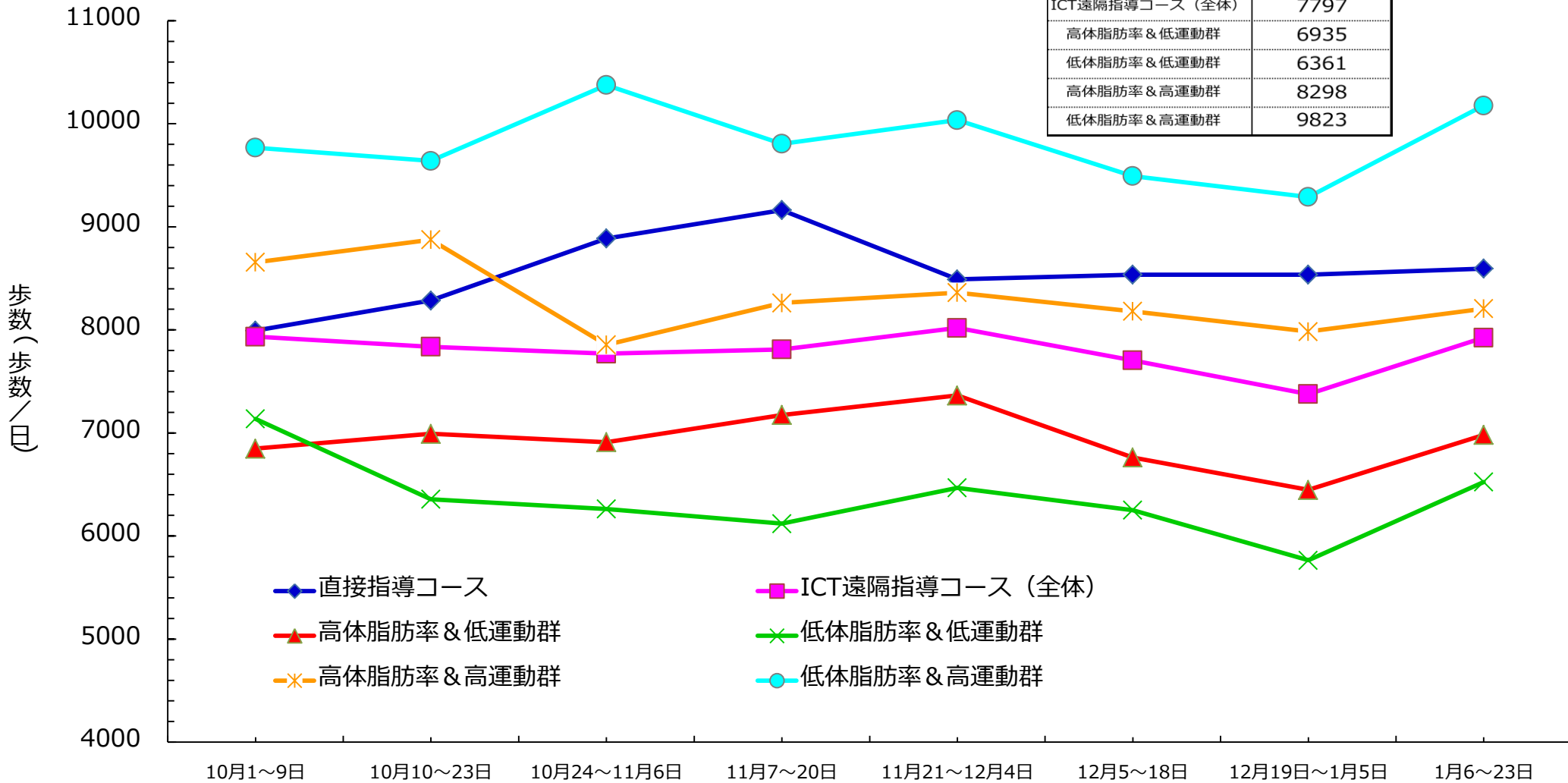


実証の成果と課題

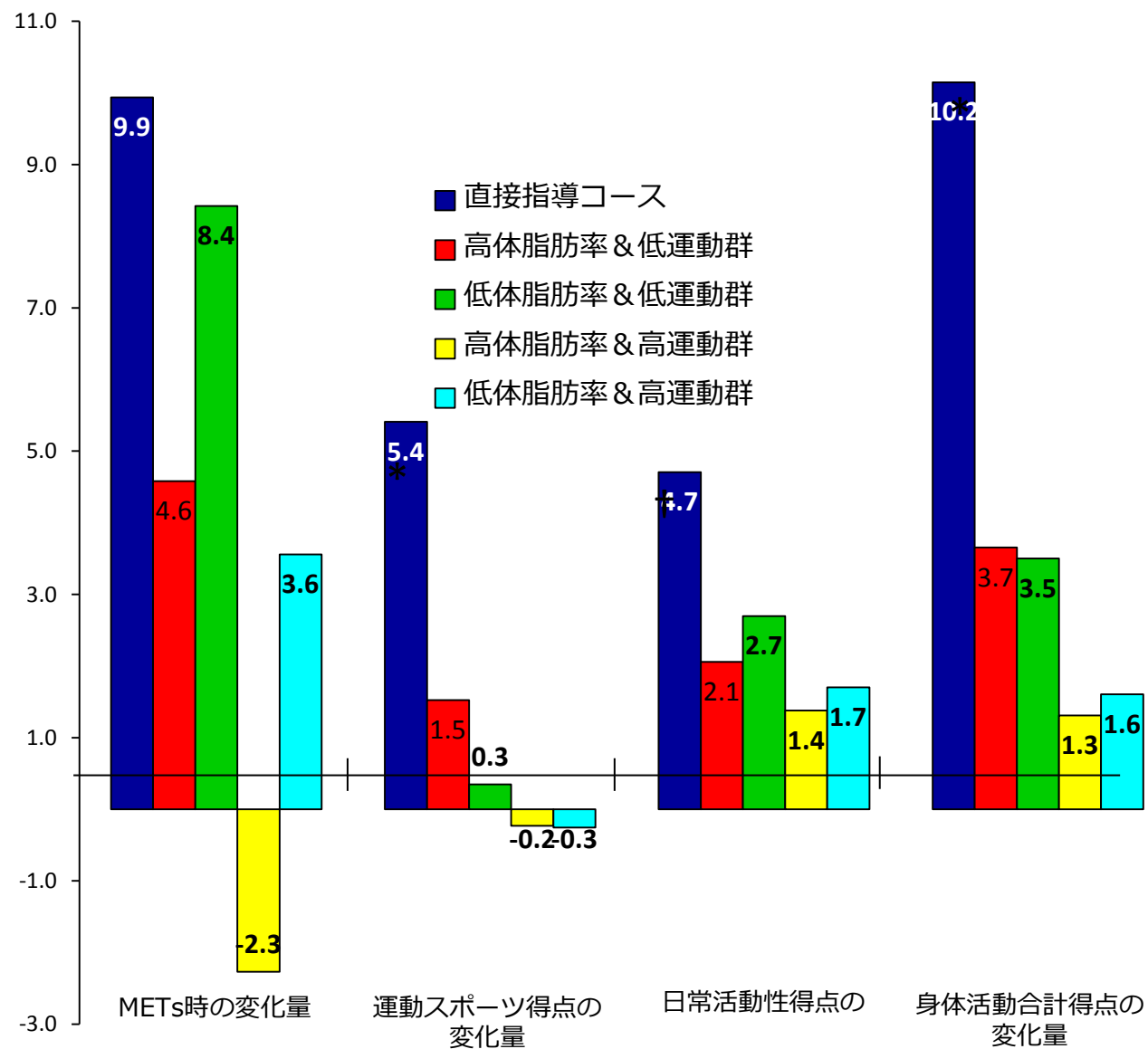
- 健康事業の成果
- 健康事業の課題
- 観光・防災事業の成果
- 観光・防災事業の課題

参加者の1日あたり平均歩数

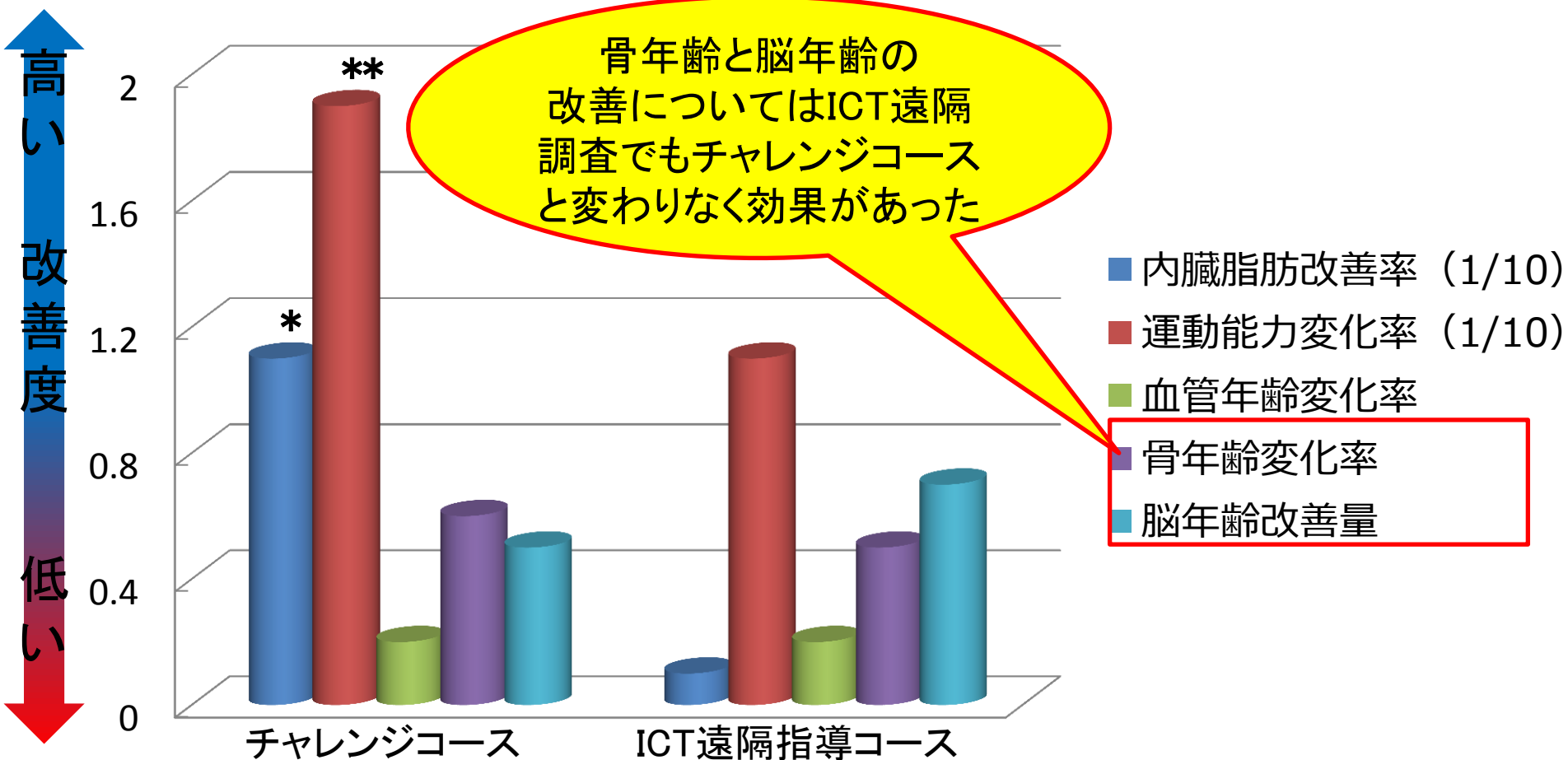
指導コース	歩数平均
直接指導コース	8561
ICT遠隔指導コース（全体）	7797
高体脂肪率&低運動群	6935
低体脂肪率&低運動群	6361
高体脂肪率&高運動群	8298
低体脂肪率&高運動群	9823



参加者の活動量, 運動・スポーツ得点などのプロジェクト期間前後の変化量



アンチエイジング検査結果



* $p < 0.05$ vs ICT遠隔指導コース ** $p < 0.01$ vs ICT遠隔指導コース

健康事業の課題

■松山市の課題である国保特定検診未受診者(約85%)へのリーチ拡大

■参加者のニーズに合わせた支援メニューの拡大

(アンケート結果より)

参加者は、「健康的になる」「痩せる」「正しい歩き方や運動に関する指導がICTを通じて受けられる・情報が得られる」等様々なニーズを持っていた。

■誰でも手軽に使える環境整備の必要性

※(アンケート結果より「参加中断に係わる理由」)

・活動量計の紛失:7名

・データの転送が機械的なトラブルで出来なくなった:31名

例)パスワードを忘れることでログインが出来なくなり、中断してしまった等

・活動量計やデータの転送が面倒:23名

・健康ナビが使いづらい:8名

・健康ナビの内容が充実していない:3名

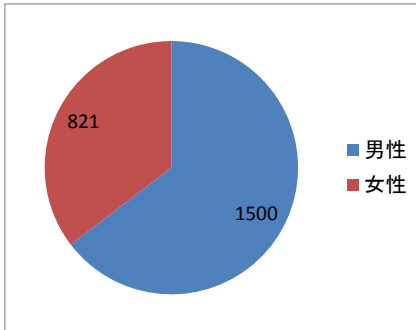
・メッセージが面白くない:3名

・健康上の問題:10名

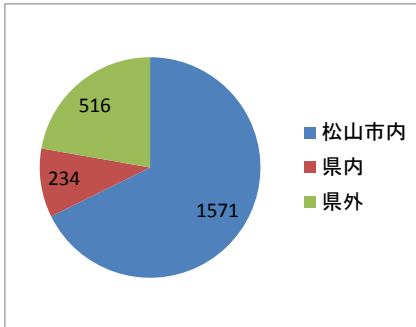
- アプリダウンロード数は、2013年10月の公開開始から順調に伸び続けている(4,865回:3月30日現在)。
- 利用者の年齢層がバランスが取れている。あらゆる世代からの支持を受けているコンテンツといえる。
- 日本語版対応のみにも関わらず外国人からのダウンロードもあり、外国人からのニーズもあると推察する。

登録利用者（3月30日現在）の構成

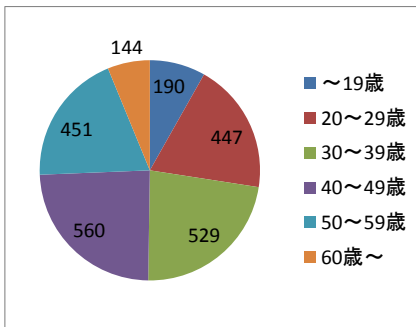
男女別内訳



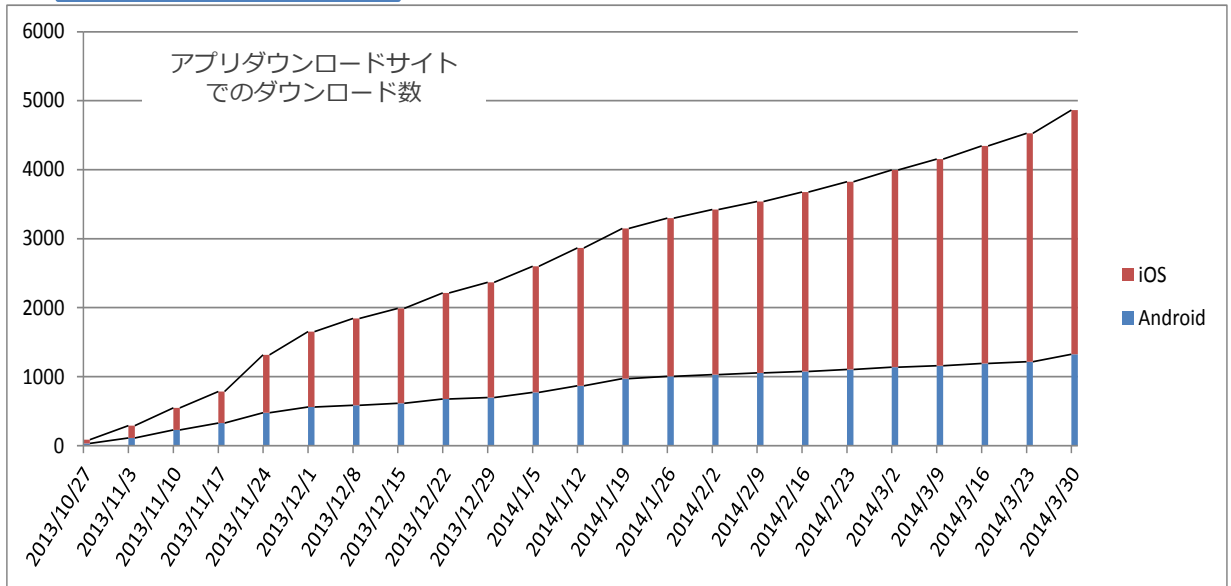
居住地域内訳



年齢層別内訳



利用者数の推移

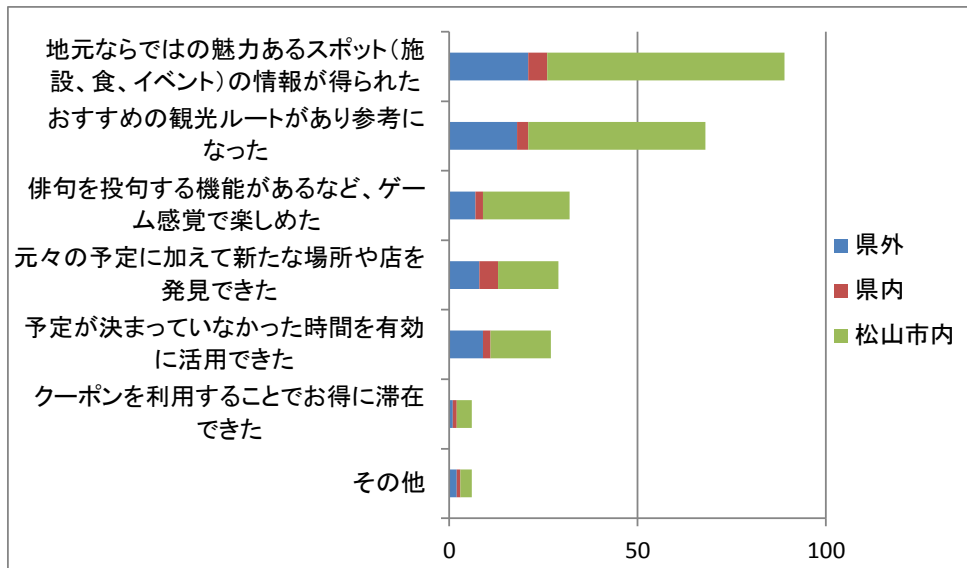


外国人ダウンロード数

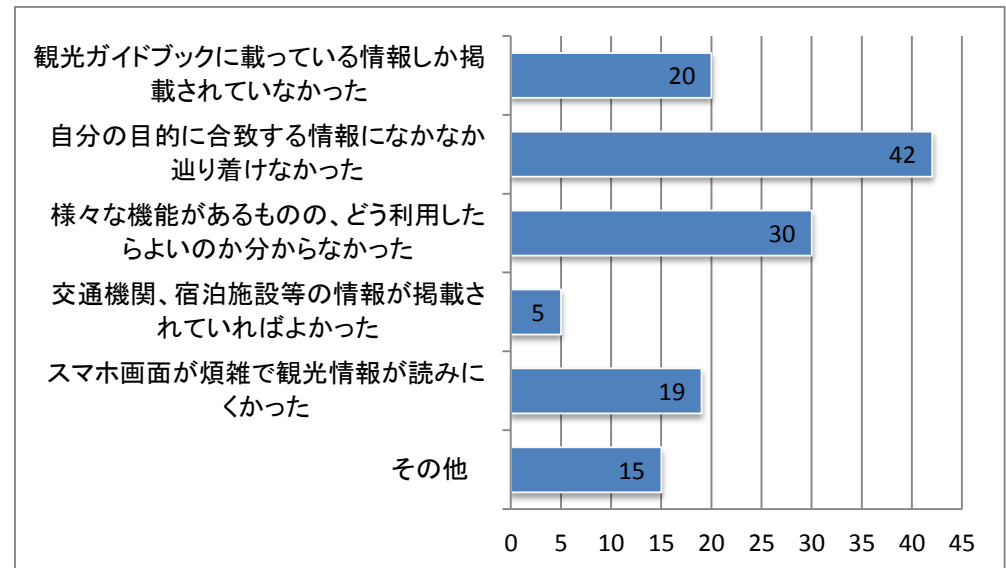
国	中国	ベトナム	韓国	米国	トルコ	ドイツ	カナダ	ロシア	香港	台湾	イタリア	インドネシア	合計
iOS	29	6	6	4	2	1	1	1	1	2			53
Android											1	1	2
合計	29	6	6	4	2	1	1	1	1	2	1	1	55

- アプリに対する「満足」の理由としては、地元ならではのスポットの情報が得られたとの声が最も多かった。
- 居住地別では、全般に県外居住者からの評価が高いが、県内在住者からは「もともとの予定に加えて新たな場所や店を発見できた」との声が多く、また県外在住者からは「予定が決まっていなかった時間を有効に活用できた」との回答が他の地域の居住者と比較して高い。
- 逆に不満の理由としては、「目的に合致する情報になかなかとり着けなかった」との声や「どう利用したらよいかわからなかった」との声が多かった。

アプリに満足した理由

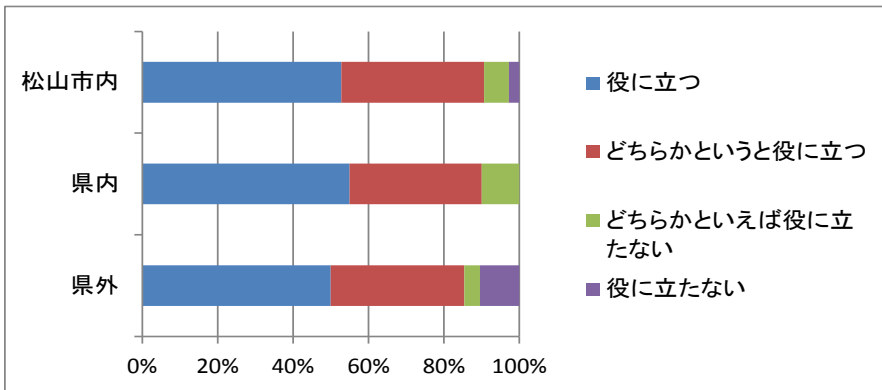


アプリに不満の理由

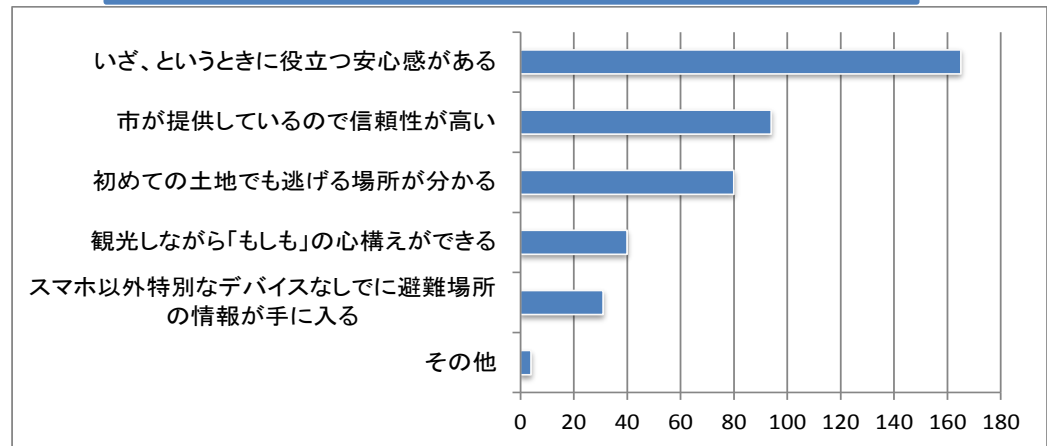


- ・ 平時に利用する観光用アプリに避難場所を表示することについても、利用者からは概ね好意的な評価が得られた。
- ・ 居住地や同様のアプリの利用有無によっても大きな差は見られず、日常的にアプリを利用している層からも好意的な評価が得られている。
- ・ 評価しない理由として「使用頻度が低い」「本当の災害が起きたらスマホには頼らない」「スマホ画面が煩雑になる」といった声もあり、観光／市街活性化用途により日常利用の拡充を図ることで、災害時にも利用できるツールとして浸透を図る必要があると考えられる。

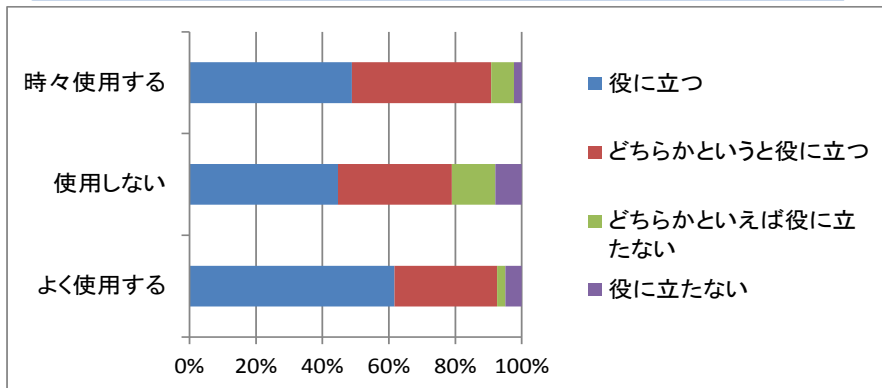
平時用機能での避難場所表示への評価 (居住地別)



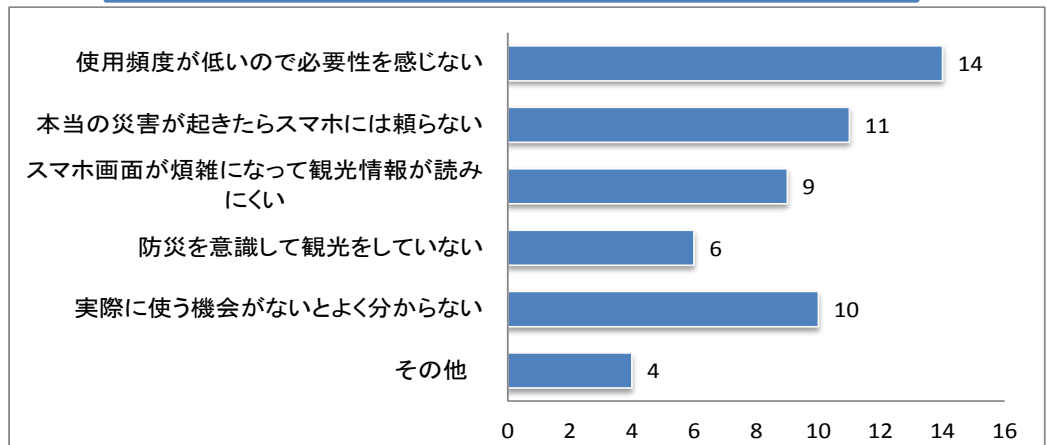
平時用機能での避難場所表示への評価理由



平時用機能での避難場所表示への評価 (同様アプリの利用傾向別)



平時用機能での避難場所表示を評価しない理由



観光・防災事業の課題

- ・本アプリの(外国人を含む)観光客のダウンロード促進と滞在時間・リピート率増大への寄与
- ・コンテンツの質的向上及びアップデート頻度の向上
- ・松山市の事業者(商店街や飲食・宿泊施設等)を巻き込んだ支援施策
- ・参加者を巻き込む既存イベントとの連携
- ・市民が求める防災関連情報の収集と提供



次年度以降の方向性について

- 「スマイル松山 プロジェクト」次年度以降の方向性
- 「スマイル松山 プロジェクト」次年度の展開
- 松山市を取り巻く状況
- 次年度に取り組みたい展開案
- 本事業がもたらすメリットについて

健康・観光・防災の実益型ICTプラットフォーム構築を目指し、同事業のさらなる深化とともに、成果を周辺地域へも汎用化し地域活性を図る

健康

医療・介護予防ビジネスモデル構築
(健康情報の共有、有料化による民間資金の流入)

観光

観光マネジメントモデル構築
(観光情報の共有、オープンデータ化の推進)

防災

スマートフォン災害支援アプリの構築
(防災組織のネットワーク化、基幹システムとの連結)

既に決定している次年度の事業展開（松山市の予算内の事業）

委託契約終了後は、松山市におけるH26年度当初予算で本事業（健康・観光・防災）と一部有料化を推進することで運営資金を確保し、今年度、総務省ICT街づくり推進事業で構築した基盤を活用した街づくりを推進。

費用負担	松山市 H26当初予算 17,350,000円
期間	2014年4月-2015年3月
想定参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●健康事業モニター:500名(無料) <li style="padding-left: 20px;">チャレンジコースモニター:制限なし(有料) ●観光・防災アプリ;無料公開(iOS、Android)
運営体制	運営体制は今年度の事業者をベースとして、産学官が一体となって推進。
スケジュール	以下に想定するスケジュールを記載

事業内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
健康測定会		●								●		
防災訓練								●				
ウォーキングイベント							●	●				
自主ウォーキング			●		●		●		●		●	
俳句アプリ選句会	●			●			●			●		

新ゴールデン ルート (京都-広島-松山)

■2013年11月
国内最大の訪日旅行商談会(世界21カ国・地域、304社の海外バイヤー、13社の海外メディア参加)にて、全国から選定された9つのコースに、新たに「京都-広島-松山」が選出。新ゴールデンルートと命名され、観光需要が高まることが期待されている。



■2014年10月
今治国際サイクリング大会(8000人参加予定)が開催され、松山市への多数の宿泊も見込まれる。

南海トラフ地震 対策地域の 指定

■2014年3月
南海トラフ巨大地震の「津波避難対策特別強化地域」と「防災対策推進地域」、首都直下地震の「緊急対策区域」のいずれか、または複数に指定された自治体は、計1000区市町村。松山市は、南海トラフ地震防災対策推進地域に指定。

医療 ICT化

■2015年～
全ての健康保険組合に対しレセプト等のデータの分析、それに基づく事業計画「データヘルス計画(仮称)」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求める。
また、市町村国保等が同様の取組を行うことを推進。



■2020年
2020年に開催される、東京五輪には期間中に1,000万人の来場が予想されており、これらの観光客を松山市へ呼び込む施策が求められている。五輪終了後は開催国のインバウンド需要は高まる傾向にある為、観光需要の受け皿を整備していくことが必要と考えている。

松山市の予算を越えて、目指したい事業展開

当面は、松山市の予算内の事業展開となるが、「量的な拡大」と「質的な深化」の2つの側面からそれぞれ事業の拡張を目指す。

【健康】 安価で便利な誰でもが手軽に使うことができるシステム構築

【観光・防災】 2020年の東京五輪を想定した外国人誘客に向けた環境整備

	2013年度		2014年度
テーマ	【実証内容】	【課題】	【想定内容】
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康状態の見える化 ・専門的な健康アドバイスの提供 ・ウォーキングイベント等の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・国保検診未受診者(約85%)へリーチ拡大 ・参加者特性に合わせた支援メニュー拡大 ・特定のデバイスに依拠しないシステム開発 	<p>【量的な拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応デバイスの拡大 ・健康サービスのアプリ化 <p>【質的な深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションキープに必要なインセンティブデザイン
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の高い観光情報の提供 ・ガイドと連携し松山の魅力を理解する「街歩き」の活性 ・消費カロリー表示による街歩きの健康価値見える化 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の滞在時間・リピート率増大への寄与 ・コンテンツの質的向上(アップデート頻度) ・参加者、事業者を巻き込む支援施策の拡充 	<p>【量的な拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人対応版のコンテンツ作り <p>【質的な深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康事業と連動した健康ツーリズムのコンテンツ開発 ・既存の地元イベントとの連携
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・平時から閲覧できる防災マップを提供 ・避難支援と安否所在確認システム ・避難訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が求める防災関連情報の収集と提供 	<p>【質的な深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織によるアプリの導入・検証 ・松山市内全域による避難訓練の実施



- 住民のメリット

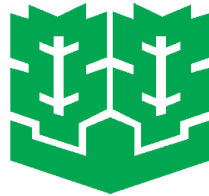
【健康増進、まちへの愛着】



観光客のメリット

【利便性向上、親近感醸成】

【大規模災害時リスク軽減】



健康で住みやすい、
笑顔溢れる松山

